

# 竣

# 新ライスセンター

renewal

弘前市紙漕沢に所在する当JAのライスセンター建替工事が完了し、8月30日に竣工を迎えた。

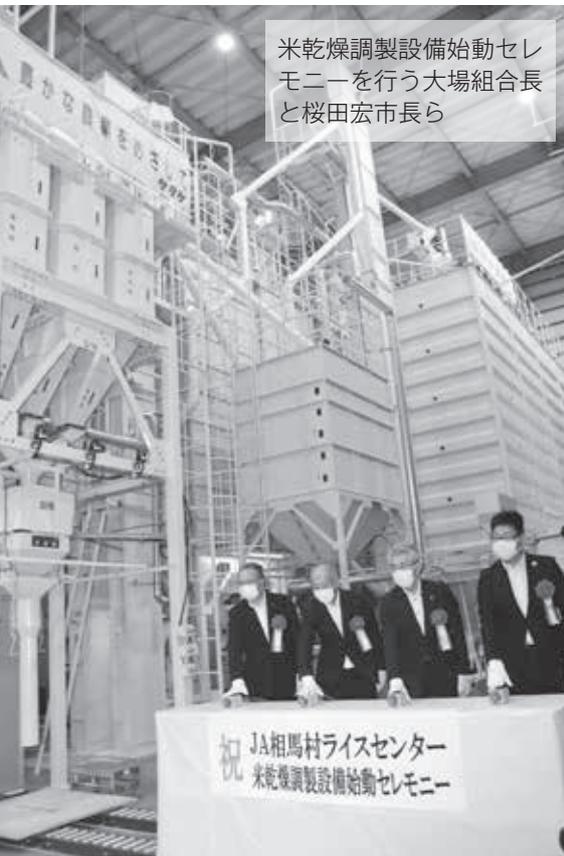
旧ライスセンターは1975年に竣工し46年間稼働したが、施設の老朽化によりコメの品質に影響が出てきていた。米消費量の落ち込みなどに伴う生産量の減少により、かつてあった560トン荷受け可能な生もみの貯蔵施設をなくしたことで、新ライスセンターは1日の荷受能力が60〜80トンと減少したが、直接遠赤外線乾燥機へ生もみが入ることで処理を迅速化し、荷受け翌日には玄米が出荷できる体制を整えた。

竣工式には約30人が出席し、玉串奉奠を行い今後の安全作業を祈願したあと、櫻田宏市長や大場勉組合長が米乾燥調製設備の始動開始ボタンを押した。

# センター

大場組合長は「大規模な設備投資となったが、食の安全性や産地としての信頼性が第一。資材高騰や大雨の影響で生産者への打撃は大きい。これからも選ばれる産地として、組合員の経営安定に貢献したい」と決意を新たに。管内では9月15日からブランド米『青天の霹靂』の稲刈りが始まる。

米乾燥調製設備始動セレモニーを行う大場組合長と櫻田宏市長ら



覚応院の住職よりご祈禱いただき、今後の豊作と安全作業を祈願する一同

品質管理が飛躍的に向上  
荷受量減少なるも、翌日出荷可能に

総事業費：619,910,500円 平屋建て：1,233㎡ 生糶荷受量：60～80t/日

# コメ機械工程大解剖

動画はコチラ

